

NEWSLETTER No.73 ISSN 1340-5578  
TŌYŌ ONGAKU GAKKAI KAIHŌ  
The Society for Research in Asiatic Music May 20, 2008

社団法人 東洋音楽学会 会報 第73号

発行 (社)東洋音楽学会  
事務所 〒110-0005 東京都台東区上野3-6-3 三春ビル307号 TEL/FAX 03-3832-5152  
●E-mail: LEN03210@nifty.com ●ホームページ: http://www.soc.nii.ac.jp/tog/

## 目次

第59回 大会のご案内	1	『東洋音楽研究』原稿募集のお知らせ	4
第59回 大会の研究発表募集	2	平成19年度 ICTM (国際伝統音楽学会)に関する報告	4
第25回 田邊尚雄賞受賞者発表	2	芸術学関連学会連合 第3回シンポジウムのお知らせ	6
第77回 通常理事会議決事項のお知らせ	2	会員異動	6
会員の受賞	3	図書・資料等の受贈	8
選挙管理委員会からのお知らせ	3	新刊書籍	9
新しい選挙制度について	3	新発売視聴覚資料	10
会費納入のお願い	4	編集後記	11
大学院生の会費割引制度が実施されます	4		

### 第59回 大会のご案内

(社)東洋音楽学会は、平成20年度の研究発表大会および公開講演会を以下の通り開催します。どうぞふるってご参加ください。

- 日時 2008年11月15日(土)～16日(日)
- 会場 武蔵野音楽大学 江古田キャンパス  
(〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1)  
交通: 西武池袋線 江古田駅北口下車 徒歩5分  
西武有楽町線 新桜台駅4番出口 徒歩5分  
地下鉄有楽町線 小竹向原駅2番出口徒歩11分

#### 3. 日程

[第1日] 11月15日(土)

- 10:00 通常理事会  
午前中 楽器博物館見学ツアー  
13:00 受付  
14:00 公開講演会

特別公演 東京都の民俗芸能

シンポジウム

「音楽研究の学際化と国際化(仮題)」

- 16:30 田邊賞授賞式  
17:00 懇親会場に移動  
18:00 懇親会(池袋:東武バンケットホール)  
[第2日] 11月16日(日)  
09:00 受付  
09:30 研究発表(1)  
13:00 通常総会  
14:30 研究発表(2)またはラウンドテーブル  
17:00 閉会  
17:10 臨時理事会(新旧理事引継ぎ)

#### 4. 会費

##### 大会参加費

正会員 4000円 \*期限内納入者は 3000円  
学生会員 3000円 \*期限内納入者は 2000円

☆非会員 15日 公開講演会参加費(資料代)1000円

懇親会費 6000円(学生会員 3000円)

大会実行委員会: 薦田治子(委員長)、植村幸生、尾高暁子、

加納マリ、黒川真理恵、新堀欽乃、野川美穂子、

森田都紀、早稲田みな子

## 第59回 大会の研究発表募集

第59回大会における研究発表を、下記の要領で募集します。  
多彩な内容の発表を期待いたします。

### 1. 発表時間

- A) 研究発表 口頭発表 20分+質疑応答 10分
- B) ラウンドテーブル 90分

### 2. 申込み方法

題目、要旨(1200字程度)、氏名(ラウンドテーブルの場合は、代表者名とパネリスト名)、連絡先(住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス等)、使用希望機材、その他の必要事項を明記の上、書面(郵送または電子メールによる送信)で、大会実行委員会までお申し込みください。

### 3. 申込み締切: 2008年7月25日(金) 必着

### 4. 申込み宛先:

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8  
東京芸術大学音楽学部楽理科 植村研究室気付  
(社)東洋音楽学会 第59回大会実行委員会  
E-mail: togtaikai2008@yahoo.co.jp

## 第25回 田邊尚雄賞受賞者発表

第25回田邊尚雄賞は、以下のように決定いたしました。

### [受賞者・受賞対象]

- A. ジェラルド・グローマー  
『警女と警女唄の研究 研究篇・史料篇』  
(名古屋大学出版会, 2007年2月発行)
- B. 谷 正人 『イラン音楽 声の文化と即興』  
(CD付)(青土社, 2007年7月発行)

### [選考経過]

今回推薦された業績6件について、3月16日に開かれた第25回田邊尚雄賞選考委員会で慎重に審議し、上記の2件が選ばれました。授賞式は本学会第59回大会で行われる予定です。理事会で承認された受賞理由は以下の通りです。

### [受賞理由]

- A. 100頁を超える関係文献解題目録、50曲以上の採

譜、600頁1100年間に亘る史料年表、300頁に及ぶ関連文書の翻刻を含む本書は、警女の活動を政治経済的文脈に位置づけ、社会の中の音楽のあり方を的確に描き出し、聞き手のあり方までも推論する。21世紀初頭における、民俗学、社会経済史、音楽学の理想的調和が、ここに見られる。

- B. イラン古典音楽のしくみについて、文化人類学における「声の文化」を援用しながら、精密な音楽学的分析を試みた書である。著者自身、サントゥール奏者として現地を踏んだ体験から、その即興の内奥にせまっている点で、先行する研究書とは一味ことなる、新鮮かつ斬新な解釈が感じ取れる。

## 第77回 通常理事会議決事項のお知らせ

2008年4月6日(日)に東京藝術大学大会議室において第77回通常理事会が開催されました。主な議決事項をお知らせいたします。

### 1) 新入会員について

前回理事会(2007年11月17日)以降、4月6日までに申し込みのあった正会員に仮承認された正会員9名、学生会員8名の入会が正式に承認されました。

### 2) 平成20年度研究発表大会および公開講演会について

本号の関連記事をご覧ください。

### 3) 第25回田邊尚雄賞受賞者について

本号の関連記事をご覧ください。

### 4) 第26回田邊尚雄賞選考委員について

佐藤道子、山川直治(以上留任)、高桑いづみ、龍村あや子、塚田健一(以上新任)の五氏に委嘱することが承認されました。

### 5) 長期会費滞納者について

2004年度以降の会費を滞納している会員を退会扱いとすることが承認されました。

### 6) 支部委員の交代について

東日本支部委員の高瀬澄子氏が沖縄支部に移籍されたため、後任として濱崎友絵氏に東日本支部委員を委嘱することが承認されました。

### 7) 参事委嘱・解嘱について

東日本支部参事の角美弥子、河内暁子、原納愛、福

田裕美の各氏と、沖縄支部参事の與那城常和子氏を解嘱すること、および山下正美、山口かおり、田村にしき、滝口幸子の各氏に東日本支部参事を委嘱することが承認されました。

#### 8) 次期理事定数および各支部委員定数の件

平成20年度役員選挙における理事定数および各支部委員定数について、理事定数を15名、東日本支部委員定数を11名、西日本支部定数を6名、沖縄支部委員定数を3名とすることが決まりました。

## 会員の受賞

### ◇千葉優子氏がロゲンドルフ賞を受賞

本学会員の千葉優子氏が、第23回ロゲンドルフ賞を受賞されました。『ドレミを選んだ日本人』(音楽之友社、2007年)の著作が、「明治以降の日本において、西洋音楽がどのように受け入れられてきたかを、伝統的日本音楽との葛藤や音楽的感性の変容とを通して跡づけ、音楽受容の歴史を通じて東西文化融合の一面を詳細に語ったもの」(ロゲンドルフ賞選考委員 小林章夫)と評価されたことによります。授賞式は昨年12月14日、上智大学において行われました。

### ◇ジェラルド・グローマー氏が小泉文夫音楽賞を受賞

本学会員のジェラルド・グローマー氏が、第19回小泉文夫音楽賞を受賞されました。長年にわたる日本民謡の音楽学的研究、とりわけ津軽三味線や瞽女唄など、周縁に位置する特殊なジャンルに注目し、これらを歴史的資料および音楽構造の両面から解明した実証的な研究が評価されたものです。なお今回はユリ・シェイキン氏とお二人の受賞となりました。授賞式は5月22日に東京ジョンプルで行なわれます。

## 選挙管理委員会からのお知らせ

本年は理事、監事の改選の年にあたります。以下の3点についてお知らせします。

### 支部委員選挙の廃止

第35回通常総会第38回通常総会(2007年11月18日)での議決をうけて、今回の選挙から支部委員選挙は廃止されます。選挙を行なうのは理事、監事のみとなります。

### 被選挙権の休止の希望について

定款施行細則第13条第4項に「定款の定めるところの役員を通算して8期以上務めた正会員は、選挙の度ごとに本人の希望によりその1期に限ってその被選挙権を休止することができる」とあります。また、同第5項に「選挙実施年の9月1日において、満70歳以上の者は、選挙の度ごとに本人の希望によりその1期に限ってその被選挙権を休止することができる」とあります。以上の条件に該当し、かつ休止を希望する正会員は、6月30日(月)までに、東洋音楽学会選挙管理委員会事務局(〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学音楽演劇講座 遠藤研究室 宛 FAX042-329-7562)宛に、書面またはファックスにてお申し出下さい。

### 選挙用名簿の作成について

選挙管理委員会では選挙用会員名簿を作成します。名簿には「正会員の姓名」を記載することになっています。つきましては、『東洋音楽研究』第72号別冊名簿(2007年7月現在)の記載事項に変更・訂正のある方で、まだ届け出ておられない方は、その変更内容を6月30日(月)までに学会事務局宛に、かならず文書(ファックス、電子メールも可)によって、ご連絡下さい。ご連絡のない場合は、現在事務局にある名簿にしたがって記載することになります。

[2008年選挙管理委員] 遠藤徹(副委員長)、島添貴美子、比嘉舞、樋口昭(委員長)、森田敬子

### 新しい選挙制度について

(支部委員の選出方法が変わります!)

昨年の総会で支部委員選挙制度が廃止されました。次回の選挙からは、理事・監事選挙のみが行われます。

支部委員選挙廃止の主な理由は、1)支部委員選挙の導入により、選挙管理委員会の業務が極度に複雑化し、選挙管理委員の仕事の負担が従来と比べて著しく増加したこと、2)支部委員の決定までに時間がかかるようになったこと、3)支部活動の活発化にとって、直接選挙が有効な方法であるとの結果が得られなかったこと、の3点です。

次期の支部委員は改選後の新理事の合議により選出されます。支部委員の選出方法を変更したことで、より柔軟に、支部活動を推進して下さる方々に支部委員をお願いできるようにになりました。新しい支部委員選出方法へのご理解をよろしくお願いいたします。

## 会費納入のお願い

2006年度(2006年9月1日~2007年8月31日)までの会費を未納の方に、請求書と振替用紙を同封いたしました。請求書で未納金額をお確かめのうえ、早速お払い込みください。なお、本誌と行き違いに納入された場合は、どうぞご容赦ください。

## 大学院生の会費割引制度が実施されます

2008年度(2008年9月1日~2009年8月31日)から大学院学生のための会費割引制度が実施されます。2008年度会費の「減額措置」を受けるためには、申し込み用紙(「大学院生会費減額措置願い」と学生証のコピー)を7月31日までに学会事務所に提出して申し込んでください。申し込み用紙は学会のHPからダウンロードするか、学会事務所にご請求下さい。手続きを完了した会員には、年額6000円の2008年度会費振替用紙が送付されます。

なお、2009年度以降も減額措置を受ける場合は、毎年「減額措置願い」を提出する必要があります。

## 『東洋音楽研究』原稿募集のお知らせ

学会機関誌『東洋音楽研究』第74号(2009年8月刊行予定)の原稿を募集しています。

投稿を希望される方は、本誌最新号に掲載した「投稿規程」および学会ホームページに掲載している「投稿の手引き」をよくお読みの上、ご投稿ください(学会ホームページをご覧にならない場合は、機関誌編集委員会にご請求ください)。

送付先：学会事務所(「機関誌投稿在中」と明記)

送付方法：プリントアウトした原稿を郵送すること。

ただし、書留郵便にはしないこと。(直接持参、または、メール添付では受け付けません。)

締め切り：2008年12月22日(月)必着

(機関誌編集委員会)

## 平成19年度 ICTM (国際伝統音楽学会)に関する報告

### 1. 第39回 ICTM 世界大会報告

平成19年7月4日から11日までオーストリアのウィーンで第39回 ICTM 世界大会が開かれました。ICTMは国際民俗音楽学会(International Folk Music Council 略称 IFMC)という名称で昭和22年に発足し、平成19年の昨年はちょうど創立60周年にあたりました。この記念すべき年の大会には世界の60を超える国々からおよそ500人の参加者が集まり、ICTMの歴史上最大規模の大会となりました。個人発表・パネル・ラウンドテーブル・フィルムセッションを含め分科会はおおよそ120にもものぼり、その中で360近い研究発表が行われました。現在 ICTM は37ヶ国に国内委員会(National Committee)をもち、国内委員会がまだ組織されないため連絡委員(liaison officer)を置いている国が39ヶ国あります。東洋音楽学会は平成3年以来、日本国内委員会として機能し、国内の ICTM 会員も徐々に増加しています。

第39回ウィーン大会の分科会のテーマとして特に多かったのは、大会テーマにもなっていた伝承(transmission)、コスモロジー、民族音楽学の国際的・地域的伝統に関するものでした。中でも特に興味深かったのは、バルカン諸国、ユーゴスラビア、北アイルランド、ハンガリー、ウクライナなどのヨーロッパ各地の民族音楽学、リトアニア・ラトヴィア・エストニアのバルト三国の戦後の音楽学、応用民族音楽学のポリティクスなど、学問分野そのものの歴史や問題を問う分科会が多かったことです。ことに大会開催地を反映し、ヨーロッパの地域的伝統や歴史が取り上げられたことは非常に意義深かったと思います。

総会では Dieter Christensen (USA)、Anthony Seeger (USA)、Christensen Malm (スウェーデン)の各氏が名誉会員として表彰され、今回出席の Seeger、Malm 両氏が挨拶をされました。また通常理事として新たに Ursula Hemetek (オーストリア)、Don Niles (パプアニューギニア)、Timothy Rice

(USA)の各氏が選出・承認されました。その他の役員は、会長が **Adrienne L. Kaepler** (USA)、副会長が **Allan Maret** (オーストラリア) と **Wim van Zanten** (オランダ)、事務総長が **Stephen Wild** (オーストラリア)、通常理事が **Patricia Opondo** (南アフリカ)、**Svanibor Pettan** (スロヴェニア)、**Jonathan Stock** (イギリス)、**Tan Sooi Beng** (マレーシア)、**Tran Quang Hai** (フランス) です。

今回の大会は例年にも増してお楽しみイベントも盛りだくさんで、歴史あるウィーン市庁舎でのオープニング・レセプション、新酒を楽しめるワイン専門の居酒屋、ホイリゲ (**Heurigen**) での夜のひと時、ワルツの講習会、週末は以前ハンガリーの一部だった **Burgenland** でワインと音楽と踊りを楽しむツアー、または **Schneeberg** の山を訪れヨーデルを聞くツアーのオプションが用意され、毎日がとても充実した大会でした。

## 2. 第40回 ICTM 世界大会開催について

平成21年7月1日から8日まで南アフリカのダーバンで第40回 ICTM 世界大会が開催されます。会場は the University of KwaZulu-Natal で、以下の大会テーマが設定されています。

- Postcolonialism(s) and the Future for Our Disciplines
- Reapproaching the “Popular” and the “Traditional” in the Contemporary World
- Festivals, Contests and Competitions
- Emotion, Spirituality and Experience
- Masculinities in Music and Dance
- New Research

発表申し込みの締め切りは平成20年11月1日です。発表希望者は発表概要を350語以内の英語でまとめ提出することになっています。いずれオンラインで発表申し込みができるようウェブサイトが開設されるとのことです。詳細は ICTM 会報112号(2008年4月発行)をご覧ください。なお、この大会のプログラム委員長は **Jonathan Stock** (email: [j.p.j.stock@sheffield.ac.uk](mailto:j.p.j.stock@sheffield.ac.uk)) です。かなり遠方の開催地ではありますが、ふるってご応募ください。

## 3. ICTM 東アジア音楽研究会(MEA)第1回研究会の報告

ICTMには特定のテーマに基づく研究会(study group)がいくつもありますが、東アジア音楽研究会(Study Group for Musics of East Asia 略称 MEA)は平成18年に ICTM 理事会

に承認されたばかりの最も新しい研究会です。その記念すべき第1回研究会が平成19年12月20日から22日まで中国の上海で行われました。会場は、この年創立80周年を迎えた伝統ある音楽学校、上海音楽院でした。当大会には東アジア諸国のみならずアメリカ合衆国、ヨーロッパ、オーストラリアを含む各地から、およそ80名の参加者が集まり、14の分科会において36の研究発表が行われました。日本人発表者は海外在住者を含め8名で、若手研究者の参加も多く将来が頼もしく思われました。また今回は主催の上海音楽院の意向により、4名の作曲家による新曲発表及び講演も行われ、そのうち二曲は上海音楽院の学生により実演されました。開会式においても中国楽器の英才教育を受けてきたと思われる当院の学生たちによって中国の現代曲が披露され、中国楽器が西洋楽器と同等の規模と重要性をもって教育されていることが実感されました。東アジア音楽研究会は ICTM の研究会の中ですでに最大規模であるということですが、「東アジア音楽」という共通関心事をもつ人々の集まりだけに、やはり世界大会とは異なる親密さや連帯感が感じられました。学術的には地域横断的に共通のテーマを扱う分科会が多く、東アジア諸国の共通性と相違点について考える多くのきっかけを与えてくれました。総会では今後の理事会役員選出方法について、公平を期すために、7名の役員のうち中国、日本、韓国、台湾、香港の各地から選出できるのは最大2名までであること、中国、日本、韓国、台湾からは現地在住の役員を最低1名ずつ選出すること、役員の最低1名は非東アジア在住者であること等の指針が説明されました。会場からは隔年の研究会以外にも会員が相互交流できる手段を求める声が上がリ、メーリングリストによる情報交換が提案されました。その結果、平成20年1月末より MEA のメーリングリストが稼働を始めました。最後に、MEA 優秀学生賞についてご報告します。本大会の基調講演者として招待された ICTM 会長の **Adrienne L. Kaepler** (USA)、および事務総長の **Stephen Wild** (オーストラリア) 各氏の寄付により、大会での発表内容に基づく優れた学生論文に対して優秀学生賞(Best Student Paper Prize)が授与される事となり、ウィスコンシン大学マディソン校の **Jeremy Leong** 氏が“Fleeing from Nazi’s Pogrom: Music and the Jewish Experience in Pre-Communist Shanghai and Fujian”と題された論文で、優秀学生賞該当者なしの佳作(Honorable Mention)に選ばれました。

#### 4. ICTM 東アジア研究会(MEA)第2回研究会開催について

MEAは第2回研究会を平成22年8月後半(日程未定)に韓国のソウルで開催する予定です。会場はthe Academy of Korean Studies、プログラム委員長はTsai Tsanhuang (email: thtsai@cuhk.edu.hk)です。大会テーマの提案は、平成20年末日までにEメールにてプログラム委員長までお知らせください。第2回研究会の詳細は後日MEAのウェブサイト(<http://www.gim.ntu.edu.tw/mea/index.html>)およびメーリングリストにてお知らせしていく予定です。MEAについてのご質問は理事会メンバーである報告者(早稲田みな子 minako\_waseda@msn.com)に直接問い合わせさせていただいても結構です。(早稲田みな子 ICTM 担当委員)

### 芸術学関連学会連合

#### 第3回シンポジウムのお知らせ

芸術学関連学会連合では、下記の日程で第3回のシンポジウムを企画しています。みなさまのご参加をお待ちしています。

『昭和40年代の日本における藝術の転換』

日時:平成20年6月14日(土) 13時~17時(予定)

会場:学習院女子大学

〒162-8650 東京都新宿区戸山3-20-1

#### 【JR・地下鉄駅より徒歩の場合】

東京メトロ副都心線「西早稲田」駅下車、徒歩1分(6月14日開業予定)

東京メトロ東西線「早稲田」駅下車、徒歩10分

JR山手線・東京メトロ東西線・西武新宿線「高田馬場」駅下車、徒歩15分

オーガナイザー: 尼ヶ崎彬氏(藝関連副会長、舞踊学会)、磯山雅氏(日本音楽学会)

詳細は、決まり次第、芸術学関連学会連合のホームページで掲示される予定ですので、そちらをご参照下さい。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/geiren/index.html>

(芸術学関連学会連合派遣委員 遠藤徹)

### 会員異動

名簿記載事項の訂正・変更・追加

(Web版では、個人情報保護の観点から、会員異動の情報は削除しています。)

### 図書・資料等の受贈

(2007年12月~2008年4月、到着順)

『岸和田祭音百景 平成地車見聞録』(CD3枚付)

森田玲著 民の謡

『岸和田だんじり祭 地車名所独案内』

製作・編集・発行 古磨屋

『ぎふ民俗音楽』第73, 74, 75号 岐阜県民俗音楽学会

『楽道』12, 1, 2, 3, 4月号

正派邦楽会

『東方學會報』No. 93

(財)東方学会

『民俗芸能研究』第43号

民俗芸能学会

『植民地台湾における公学校唱歌教育』

岡部芳弘著 明石書店

『ヒンドゥー教徒の集団歌謡——神と人との連鎖構造』

田中多佳子著 世界思想社

『音楽学』第53巻2号

日本音楽学会

『研究紀要』XXVIII

エリザベト音楽大学

『国際研究集会「越境する演劇」成果報告論集』

早稲田大学演劇博物館

『日本の伝統芸能講座 音楽』

小島美子監修 国立劇場企画・編集 淡交社

『「吉田巖書誌」北海道立アイヌ民族文化研究センター調査研究報告書4』

『研究紀要』第14号

北海道立アイヌ民族文化研究センター

『現代日本社会における音楽』(放送大学教材)

月溪恒子、北川純子、小塩さとみ 放送大学教育振興会

『音楽研究2「雅楽 いまとむかし」』(CD-ROM)

馬淵卯三郎編集 池淵隆 CD製作・監修 APSARAS 企画

『演劇映像』第49号

早稲田大学演劇映像学会

『演劇博物館グローバルCOE 紀要「演劇映像学2007」』

第1, 2, 3集

『News Letter』No. 1

早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム

新刊書籍

(ゴシック体の項目は賛助会員による刊行物)

- 『赤ちゃんのこころが育つ子守唄—ねんねんころり』日本子守唄協会、西館好子、エクスナレッジ、1,890円
- 『アラブ・ミュージック—その深遠なる魅力に迫る』関口義人、東京堂出版、1,890円
- 『うちな—ぬたからむん—沖繩の宝物』照屋林賢、教材研究所、1,575円
- 『江戸落語便利帳 附落語事典長編人情斬・文芸斬編』吉田章一、青蛙房、3,360円
- 『海老蔵最良』花菱良子、文芸社、1,260円
- 『音楽から見える「アメリカ」—カントリー&ウエスタンとともに40年』マイク伊藤、彩流社、2,100円
- 『音楽大学・短大・高校音楽科入試問題集2007年度』音楽之友社、6,825円
- 『音楽と楽器の音響測定(音響テクノロジーシリーズ)』吉川茂、鈴木英男、コロナ社、4,830円
- 『音楽のたのしみ(白水Uブックス;音楽とは何だろう)1』ロラン・マニュエル(吉田秀和訳)白水社、1,890円
- 『音楽のたのしみ(白水Uブックス;音楽のあゆみ—ベートーヴェンまで)2』ロラン・マニュエル(吉田秀和訳)白水社、1,890円
- 『音楽療法スーパービジョン 上』ミシェル・フォーリナツシュ(加藤美知子、門間陽子訳)、人間と歴史社 2,625円
- 『雅楽—時空を超えた遙かな調べ』鳥居本幸代、春秋社、2,625円
- 『楽戸—中国・伝統音楽文化の担い手』項陽(好並隆司訳)、部落解放・人権研究所、2,310円
- 『歌舞伎オン・ステージ 14』延広真治、白水社、4,830円
- 『かぶき手帖 2008年版』伝統歌舞伎保存会、松竹株式会社、日本俳優協会、日本俳優協会、1,300円
- 『歌舞伎の事典』藤田洋、新星出版社、1,785円
- 『歌舞伎を楽しむ本』主婦と生活社、1,450円
- 『上方芸能事典』森西真弓、岩波書店、4,200円
- 『観世流史参究』表章、絵書店、15,750円
- 『完本管絃楽法』伊福部昭、音楽之友社、25,200円
- 『義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集12—赤沢山伊東伝記』義太夫節正本刊行会、玉川大学出版部、2,415円

- 『狂言ハンドブック—「狂言」のすべてがわかる小事典 第3版』小林貢、油谷光雄、三省堂、1,733円
- 『黒川能の里—庄内にいだから』大石芳野、馬場あき子、清流出版、3,675円
- 『芸者の粋と意地—向島花柳界に舞う女たちの生き様』出馬康成、角川学芸出版、1,700円
- 『現代に生きる近松—戦後60年の軌跡』深澤昌夫、雄山閣、6,930円
- 『サウンドスケープの技法—音風景とまちづくり』松正史、昭和堂、3,360円
- 『尺八の研究』西川秀利、Hon's ペンギン、3,999円
- 『シューマン(作曲家・人と作品シリーズ)』藤本一子、音楽之友社、1,470円
- 『シュルレアリスム落語宣言』平岡正明、白夜書房、2,940円
- 『唱歌と国語—明治近代化の装置』山東功、講談社、1,575円
- 『信州ふるさとの歌大集成—胸にしみる懐かしい調べ歌い継がれる信州のこころ』市川健夫、吉本隆行、一草舎出版、4,799円
- 『志ん生全席落語事典』保田武宏、大和書房、2,415円
- 『図説江戸大道芸事典』宮尾與男、柏書房、9,240円
- 『世阿弥と禅』大友泰司、翰林書房、2,520円
- 『背中の背中』河竹登志夫、小学館スクウェア、1,890円
- 『武満徹対談選—仕事の夢 夢の仕事』武満徹、小沼純一、筑摩書房、1,470円
- 『テルミン学習帳』佐藤沙恵、アスキー、2,709円
- 『日本の伝統芸能講座音楽』国立劇場、小島美子、淡交社、3,990円
- 『日本の人形劇 1867~2007』加藤暁子、法政大学出版局、2,940円
- 『日本芸能事典—50年の記録』日外アソシエーツ、14,800円
- 『日本古典芸能史』今岡謙太郎、武蔵野美術大学出版局 2,100円
- 『日本名歌のふるさとを訪ねて』鳥居勝、牧歌舎(星雲社)、1,260円
- 『捏像はいてなかった赤い靴—一定説はこうして作られた』阿井渉介、徳間書店、1,575円
- 『橋本治・岡田嘉夫の歌舞伎絵巻 1—仮名手本忠臣蔵』橋本治、岡田嘉夫、ポプラ社、1,680円

『橋本治・岡田嘉夫の歌舞伎絵巻 2—義経千本桜』橋本治、岡田嘉夫、ポプラ社、1,680円

『橋本治・岡田嘉夫の歌舞伎絵巻 3—菅原伝授手習鑑』橋本治、岡田嘉夫、ポプラ社、1,680円

『噺家の小言指南』小言幸兵衛、日東書院、1,260円

『評伝観世榮夫』船木拓生、平凡社、3,150円

『ひらひらはなびら—キンダーブック昭和の童謡童画集』武鹿悦子、林健造、フレーベル館、3,150円

『ヒンドゥー教徒の集団歌謡—神と人との連鎖構造』田中多佳子、世界思想社教学社、6,825円

『プエルト・リコ! カリブのラテントリオ—〈トリオ・ボリーケン〉から〈トリオ・ロス・パンチョス〉へ、そして・・・』パブロ・マルシアル・オルティース・ラモ (関根秀介訳)、彩流社、3,990円

『平家吟譜—宮崎文庫記念館蔵平家物語』村上光徳、鈴木孝庸、瑞木書房 (慶友社)、26,250円

『平家琵琶にみる伝承と文化—「平曲古今譚」「平曲伝統記」「平曲温故集」』楠美晚翠、鈴木まどか、笠井百合子、鈴木元子、大河書房、5,880円

『松本千代栄撰集 1—舞踊論叢』松本千代栄、舞踊文化と教育研究の会、明治図書出版、5,355円

『松本千代栄撰集 2—人間発達と表現—幼・小期—』松本千代栄、舞踊文化と教育研究の会、明治図書出版、5,250円

『松本千代栄撰集 3—人間発達と舞踊創作』松本千代栄、舞踊文化と教育研究の会、明治図書出版、6,615円

『松本千代栄撰集 4—舞踊発想と音楽』松本千代栄、舞踊文化と教育研究の会、明治図書出版、5,250円

『松本千代栄撰集 5—舞踊教育の開拓』松本千代栄、舞踊文化と教育研究の会、明治図書出版、5,775円

『三島由紀夫と歌舞伎』木谷真紀子、翰林書房、2,940円

『魅せられた身体—旅する音楽家コリン・マクフィーとその時代』小沼純一、青土社、2,520円

『ミニマル・ミュージック (増補新版)』小沼純一、青土社、2,730円

『名曲悪口事典—クラシック名曲の悪評集』ニコラス・スロニムスキー (伊藤制子他訳)、音楽之友社、3,465円

『もっと知りたい上方文化—過去と現在を訪ねる』日本経済新聞社、日本経済新聞出版社、1,680円

『幽玄なる響き—人間国宝・山口五郎の尺八と生涯』月溪恒子、徳丸十盟、斎藤完 (徳丸吉彦監修)、出版芸術

社、3,150円

## 新発売視聴覚資料

(ゴシック体の項目は賛助会員による刊行物)

### ●DVD

『第11回日本伝統文化振興財団財団賞 片山清司(能楽シテ方)』日本伝統文化振興財団、3,500円

『東京・邦楽コンクール 2007 第4回 東京・邦楽コンクール本選会ライブ』日本伝統文化振興財団(ビクターエンタテインメント)、3,499円

『二胡の世界 名曲の旅』姜建華、コロムビアミュージックエンタテインメント、3,990円

### ●CD

『おもしろニッポン「狂言」編』COCJ-34728、2,500円

『おもしろニッポン「地歌」編』COCJ-34729、2,500円

『おもしろニッポン「長唄」「清元」「常磐津」編』COCJ-34730、2,500円

『おもしろニッポン「新内」「琵琶」編』COCJ-34731、2,500円

『光年の歌』林英哲、KIGS-1、3,000円

『尺八の魅力』堀淡三、COCJ-34762、2,000円

『空を叩いて 光、初めて白し』林英哲、KIZC-25~28、6,800円 \*CD 3枚、DVD 1枚の4枚組み

『地球→日本 THE EARTH→JAPAN』杵屋裕光、VZCG-660、2,800円

『二枚目』沢井比河流、VZCG-658、3,150円

『人間国宝 義太夫九代目 竹本綱大夫』COCJ-34035~39、各2,940円

『ヒーリング KOTO KOTO で弾く J-POP 1』コラージュ (Collage)、VZCG-8380、4,200円

『ヒーリング KOTO KOTO で弾く J-POP 2』コラージュ (Collage)、VZCG-8381、4,200円

『ヒーリング KOTO KOTO で弾く J-POP 3』コラージュ (Collage)、VZCG-8382、4,200円

『朗読・宮城道雄随筆集1「雨の念仏」(上)』VZCG-661、2,100円

『朗読・宮城道雄随筆集2「雨の念仏」(下)』VZCG-662、2,100円

『朗読・宮城道雄随筆集3「騒音」(上)』VZCG-663、2,100円

『朗読・宮城道雄随筆集4「騒音」(下)』VZCG-664、2,100円

## 編集後記

- ◇本号より、5月号の発行日を20日に変更いたします。支部だよりや大会プログラムなど、同封物との関係で変動することもあります。今後の会報は、1月号、5月号、9月号ともに、基本的には20日の発行になります。
- ◇今年度の大会の案内を掲載しています。4年ぶりの東京での開催となります。ふるってのご参加をお願いいたします。
- ◇会報の巻末に、賛助会員による刊行物の広告を掲載いたしました。賛助会員として本学会にご支援いただいていることに感謝して、「新刊書籍」「新発売視聴覚資料」における刊行物のゴシック体表示とともに、無料にて広告のスペースを提供しています。今後も、毎年5月号には広告ページを設ける予定です。
- ◇上記のような賛助会員へのサービスがあることを宣伝していただき、賛助会員への入会を広くお誘いいただきませう、お願いいたします。

## 会報編集委員会

理事：野川美穂子、尾高暁子

参事：青柳万紀子、重田絵美、柴田真希、新堀歆乃、  
瀧知也、星野厚子、柳澤久美子